

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-252246
(43)Date of publication of application : 17.09.1999

(51)Int.Cl. H04M 1/66
H04Q 7/38

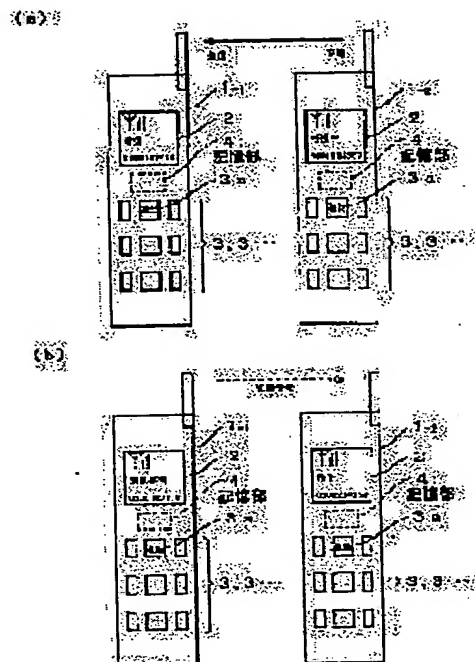
(21)Application number : 10-069264 (71)Applicant : NEC MOBILE COMMUN LTD
(22)Date of filing : 05.03.1998 (72)Inventor : MOTOYAMA HITOSHI

(54) METHOD FOR REJECTING INCOMING CALL

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To reject an incoming call without making a caller feel unnaturalness by making a called side send a disconnection signal of incoming call reject to a telephone line network and making the telephone line network send a signal to the effect that a telephone is busy to a caller when the inherent number of the caller is stored in a storing means to a calling from the caller and also incoming call reject information is attached.

SOLUTION: A user of a mobile telephone set 1-2 operates operation keys 3, 3,... and a communication key 3a, transmits to a mobile telephone set 1-1 and calls it. The set 1-1 signals to the user to the effect that an incoming call arrives and shows the inherent number of a calling side on displaying part 2. Also, when it rejects the incoming call by the operation keys 3, 3,... except the key 3a, it stores it in a storing part 4. The set 1-1 sends a disconnection signal before signaling response or calling even if a calling comes from a mobile telephone 1-2 of an inherent number stored in the part 4. Thus, the incoming call can be rejected without unnaturalness because it is shown that the telephone is busy on the displaying part of the set 1-1.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 05.03.1998
[Date of sending the examiner's decision of rejection] 12.10.1999

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-252246

(43)公開日 平成11年(1999) 9月17日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

H 0 4 M 1/66

H 0 4 M 1/66

C

H 0 4 Q 7/38

H 0 4 B 7/26

1 0 9 L

審査請求 有 請求項の数6 F D (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平10-69264

(22)出願日 平成10年(1998) 3月5日

(71)出願人 390000974

日本電気移動通信株式会社

横浜市港北区新横浜三丁目16番8号 (N
E C移動通信ビル)

(72)発明者 本山 衡

神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目16番8
号 日本電気移動通信株式会社内

(74)代理人 弁理士 堀 城之

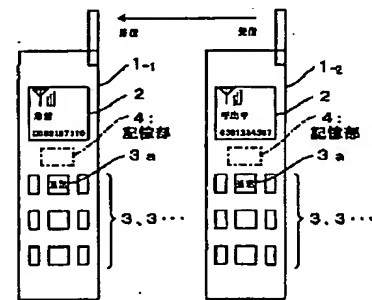
(54)【発明の名称】 着信拒否方法

(57)【要約】

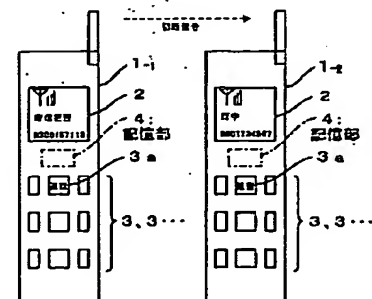
【課題】 簡単な操作あるいは自動で特定の発信者からの着信を拒否し、さらに着信を拒否された発信者に不自然さを感じさせない移動電話を提供する。

【解決手段】 記憶手段に複数の固有番号と固有番号に対する着信拒否情報とを記憶し、発信者に固有の番号が付された呼び出しに対して、発信者に固有の番号が記憶手段に記憶され且つ番号に着信拒否情報が付されている場合に、発信者に対して切断信号を送信する。また、発信者に固有の番号が付された呼び出しに対して、固有の番号を表示手段に表示し、第1の操作手段を操作することにより発信者に対して切断信号を送信する。また、発信者に固有の番号が記憶手段に記憶されていない場合に、固有の番号を記憶手段に記憶するとともに当該番号に着信拒否情報を付加する。また、発信者に固有の番号が記憶手段に記憶されている場合に、記憶手段に記憶されている当該番号に着信拒否情報を付加する。

(a)



(b)



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 記憶手段（４）に複数の固有番号と当該固有番号に対する着信拒否情報とを記憶し、発信者に固有の番号が付された呼び出しに対して、当該発信者に固有の番号が前記記憶手段に記憶され且つ当該番号に着信拒否情報が付されている場合に、当該発信者に対して切断信号を送信することを特徴とする移動電話。

【請求項 2】 発信者に固有の番号が付された呼び出しに対して、当該固有の番号を表示手段（２）に表示し、第 1 の操作手段を操作することにより前記発信者に対して切断信号を送信することを特徴とする請求項 1 に記載の移動電話。

【請求項 3】 前記発信者に固有の番号が前記記憶手段に記憶されていない場合に、当該固有の番号を前記記憶手段に記憶するとともに当該番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする請求項 2 に記載の移動電話。

【請求項 4】 前記発信者に固有の番号が前記記憶手段に記憶されている場合に、前記記憶手段に記憶されている当該番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする請求項 2 に記載の移動電話。

【請求項 5】 発信者に固有の番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、第 2 の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、第 3 の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている固有の番号に対して前記着信拒否情報を付加することを特徴とする請求項 3 または請求項 4 の何れかに記載の移動電話。

【請求項 6】 発信者に固有の番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、第 2 の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、第 4 の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている固有の番号に付されている前記着信拒否情報を消去することを特徴とする請求項 3 または請求項 4 の何れかに記載の移動電話。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、携帯電話等の移動電話に関し、特に発信者番号が付された発信に対して通話する移動電話に関する。

【0002】

【従来の技術】無言電話等の迷惑電話や不要電話等を回避する方法として、着信拒否がある。従来の移動電話（携帯電話等）を例に挙げると、移動電話器のメモリには予め複数の電話番号が格納されている。この移動電話

器に着信があったときに、発信側の番号がメモリに格納され、且つ着信拒否番号に設定されていた番号であれば、拒否をする。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】即ちこの方法は、着信拒否番号として登録されている番号から電話がかかってくると、応答する前に切断するというものであり、メモリに登録されている番号に対してのみ着信拒否が可能となっていた。

10 【0004】ところが本来着信拒否というのは、状況に応じて着信を拒否したい場合と、上述のような迷惑電話や不要電話の場合に無条件に拒否したい場合の 2 通りがある。

【0005】従来の電話では、着信時に発信側の番号を見て、状況に応じて着信を拒否することはできなかった。この発明は、このような背景の下になされたもので、簡単な操作あるいは自動で特定の発信者からの着信を拒否し、さらに着信を拒否された発信者に不自然さを感じさせない移動電話を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するために、請求項 1 に記載の発明にあっては、記憶手段に複数の固有番号と当該固有番号に対する着信拒否情報とを記憶し、発信者に固有の番号が付された呼び出しに対して、当該発信者に固有の番号が前記記憶手段に記憶され且つ当該番号に着信拒否情報が付されている場合に、当該発信者に対して切断信号を送信することを特徴とする。また、請求項 2 に記載の発明にあっては、請求項 1 に記載の移動電話では、発信者に固有の番号が付された呼び出しに対して、当該固有の番号を表示手段に表示し、第 1 の操作手段を操作することにより前記発信者に対して切断信号を送信することを特徴とする。また、請求項 3 に記載の発明にあっては、請求項 2 に記載の移動電話では、前記発信者に固有の番号が前記記憶手段に記憶されていない場合に、当該固有の番号を前記記憶手段に記憶するとともに当該番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする。また、請求項 4 に記載の発明にあっては、請求項 2 に記載の移動電話では、前記発信者に固有の番号が前記記憶手段に記憶されている場合に、前記記憶手段に記憶されている当該番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする。また、請求項 5 に記載の発明にあっては、請求項 3 または請求項 4 の何れかに記載の移動電話では、発信者に固有の番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、第 2 の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、第 3 の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている固有の番号に対して前記着信拒否情報を付加することを特徴とする。また、請求項 6 に記載の発明にあっては、請求項 3 または請求項 4 の何れかに記載の

移動電話では、発信者に固有の番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、第2の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、第4の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている固有の番号に付されている前記着信拒否情報を消去することを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】以下に図面を参照して本発明について説明する。図1は、本発明の移動電話が適用される移動電話の構成と動作を説明するための説明図である。図1において、1-1はPHS(Personal Handy-phone System:簡易型携帯電話)等の移動電話器である。この移動電話器1-1は、表示部2と、通話キー3aを含む複数の操作キー3、3・・・と、記憶部4とを有している。

【0008】1-2も移動電話器である。この移動電話器1-2の構成は、移動電話器1-1の構成と同様であるので、詳細な説明は省略する。本実施の形態では、移動電話器1-1には“0501234567”という固有の番号が割り当てられ、移動電話器1-2には“0300187110”という固有の番号が割り当てられている。

【0009】上述の表示部2は、LCD(Liquid Crystal Display:液晶表示装置)等から構成されており、電波状態や各種メッセージ、あるいはメモリ(図示省略)に記憶されている相手先番号を表示したり、発信時には相手先番号、着信時に発信者番号を表示する。記憶部4はフラッシュメモリ等が用いられ、電話番号(固有の番号)や名前ならびに着信履歴、そして着信拒否可否かのステータス等が記憶される。

【0010】まず図1(a)では、移動電話器1-2の使用30 者が、移動電話器1-2の操作キー3、3・・・ならびに通話キー3aを操作して、移動電話器1-1に対して発信して呼び出した。

【0011】なおこのとき、移動電話器1-1の記憶部4には、移動電話器1-2に固有の番号“0300187110”は記憶されていないか、または番号は記憶されているが着信拒否になっていないものとする。

【0012】このとき移動電話器1-1では、図示しないに報知装置を用いて、着信した旨を音や振動によって移動電話器1-1の使用者に報知する。同時に移動電話器1-1は、発信側である移動電話器1-2の固有番号を表示部2に表示する。通常移動電話器1-1の使用者は、通話キー3aを操作して通話を開始するか、図示しない保留キーを操作して通話保留にする。

【0013】本実施の形態では、着信呼び出し中に移動電話器1-2の使用者が通話キー3a以外の操作キー3、3・・・の何れかを操作すると、移動電話器1-2に切断信号を送信し、図1(b)に示すように着信拒否となる。このとき、発信側の移動電話器1-1の表示部2には“話中”と表示される。

【0014】また、移動電話器1-1において通話キー3a以外の操作キー3、3・・・の何れかを操作して着信拒否した場合、呼び出してきた移動電話器1-2に固有の番号を記憶部4に記憶する。または、既に記憶部4に呼び出してきた移動電話器1-2に固有の番号が記憶されている場合には、この番号に対する着信拒否のステータスを“着信拒否”にする。

【0015】このような一度着信拒否した番号については、内部の記憶部4に記憶しておき、次にこの発信者番号から呼び出しがあった場合には、応答する前あるいは呼び出しを報知する前に回線を切断する。

【0016】図2は、本発明の移動電話が適用される電話回線網と移動電話との状態の流れを示す図である。図2において、呼び出しの際には、発信者番号通知の可否に基づいて発信者番号が通知されるか否か決定されるが、発信者番号通知有りの場合には、図2のように発信側の番号が通知されてくる。呼び出し中に、通話キー以外のキーを操作をすることによって発信側には切断信号が送信され、呼び出し中状態を切断放する。

【0017】図3は、本実施の形態の表示部2における表示例を示す図である。図3(a)では、着信履歴として過去に呼びだされた発信者番号を順次表示している。このとき、操作キー3、3の内の所定のキーを操作すると、図3(b)に示すように表示している発信者番号を着信拒否設定するか否かを聞いてくる。

【0018】図3(b)に示す例では、“0”のキーを操作すれば表示されている発信者番号が記憶部4に記憶され、同時にこの発信者番号が着信拒否に設定さる(図3(c)参照)。一方、“1”のキーを操作すれば着信拒否に設定されことなく、次の着信履歴を表示したり、着信履歴の表示を終了する。

【0019】逆に着信拒否の設定を解除する場合にも、図3に示すように表示部2に着信履歴を順次表示し、着信拒否の設定解除に該当する発信者番号が表示されているときに操作キー3、3の内の所定のキーを操作して着信拒否の設定を解除することができる。これにより、通常の着信応答ができるようになる。

【0020】このように本発明では、電話をかけてきた相手と通話したくない場合にも、慌てて電源を切ったり、一度通話して切る等ということとは必要なくなる。この場合、一般的に発信側はこの番号を再度呼び出すが、着信側は着信拒否した相手を記憶しているので、次には着信動作を行わずに切断する。

【0021】これがPHSや携帯電話等であれば、呼び出した相手は通信圏外(サービスエリア外)に出たのか、電話が故障しているものと思って諦め、着信拒否の動作が成立する。また、こうして着信拒否の設定の記憶は破棄することができ、次は応答したい場合でも簡単に解除できるようにする。

50 【0022】即ち上述の実施の形態によれば、第1に簡

＊示し、第3の操作手段を操作することにより表示手段に表示されている固有の番号に対して着信拒否情報を付加する。また、発信者に固有の番号が付された呼び出しの履歴を記憶手段に記憶し、第2の操作手段を操作することにより履歴を表示手段に順次表示し、第4の操作手段を操作することにより表示手段に表示されている固有の番号に付されている着信拒否情報を消去するので、簡単な操作あるいは自動で特定の発信者からの着信を拒否し、さらに着信を拒否された発信者に不自然さを感じさせない携帯電話が実現可能であるという効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の移動電話が適用される移動電話の構成と動作を説明するための説明図である。

【図2】. 本発明の移動電話が適用される電話回線網と移動電話との状態の流れを示す図である。

【図3】 本実施の形態の表示部2における表示例を示す図である。

【符号の説明】

1-1、1-2 移動電話器

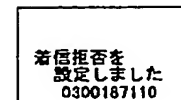
2 表示部（表示手段）

3.3 操作卡一

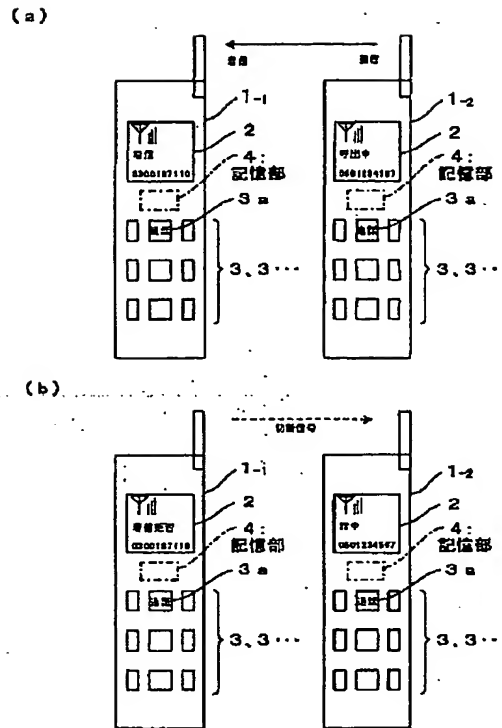
3 a 通話中一

4 記憶部（記憶手段）

【圖 3】



【図 1】



【手続補正書】

【提出日】平成 1 1 年 3 月 8 日

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正内容】

【発明の名称】 着信拒否方法

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 記憶手段（4）に複数の固有番号と当該固有番号に対する着信拒否情報とを記憶し、
発信者からの呼び出しに対して当該発信者に固有の前記固有番号が前記記憶手段に記憶され且つ当該固有番号に着信拒否情報が付されている場合に、
着信側は着信拒否にかかる切断信号を電話回線網に送信し、当該電話回線網は前記発信者に対して話中を表示させる旨の信号を送信することを特徴とする着信拒否方

法。

【請求項 2】 発信者からの呼び出しに対して、
前記発信者に固有の前記固有番号を表示手段（2）に表示し、

第 1 の操作手段を操作することにより前記着信拒否にかかる切断信号を前記電話回線網に送信し、当該電話回線網は前記発信者に対して前記話中を表示させる旨の信号を送信することを特徴とする請求項 1 に記載の着信拒否方法。

【請求項 3】 前記発信者に固有の前記固有番号が前記記憶手段に記憶されていない場合に、
当該固有番号を前記記憶手段に記憶するとともに当該固有番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする請求項 2 に記載の着信拒否方法。

【請求項 4】 前記発信者に固有の前記固有番号が前記記憶手段に記憶されている場合に、
前記記憶手段に記憶されている当該固有番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする請求項 2 に記載の着信拒否方法。

【請求項 5】 前記発信者に固有の前記固有番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、

第2の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、

第3の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている前記固有番号に対して前記着信拒否情報を付加することを特徴とする請求項3または請求項4の何れかに記載の着信拒否方法。

【請求項6】 前記発信者に固有の前記固有番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、

第2の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、

第4の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている前記固有番号に付されている前記着信拒否情報を消去することを特徴とする請求項3または請求項4の何れかに記載の着信拒否方法。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、携帯電話等の移動電話において、特定の発信者番号からの呼び出しに対して着信を拒否する着信拒否方法に関する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】従来の電話では、着信時に発信側の番号を見て、状況に応じて着信を拒否することはできなかった。この発明は、このような背景の下になされたもので、簡単な操作あるいは自動で特定の発信者からの着信を拒否し、さらに着信を拒否された発信者に不自然さを感じさせない着信拒否方法を提供することを目的としている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するために、請求項1に記載の発明にあっては、記憶手段に複数の固有番号と当該固有番号に対する着信拒否情報とを記憶し、発信者からの呼び出しに対して当該発信者に固有の前記固有番号が前記記憶手段に記憶され且つ当該固有番号に着信拒否情報が付されている場合に、着信側は着信拒否にかかる切断信号を電話回線網に送信し、当該電話回線網は前記発信者に対して話中を表示させる旨の信号を送信することを特徴とする。また、請求項2に

記載の発明にあっては、請求項1に記載の着信拒否方法では、発信者からの呼び出しに対して、前記発信者に固有の前記固有番号を表示手段に表示し、第1の操作手段を操作することにより前記着信拒否にかかる切断信号を前記電話回線網に送信し、当該電話回線網は前記発信者に対して前記話中を表示させる旨の信号を送信することを特徴とする。また、請求項3に記載の発明にあっては、請求項2に記載の着信拒否方法では、前記発信者に固有の前記固有番号が前記記憶手段に記憶されていない場合に、当該固有番号を前記記憶手段に記憶するとともに当該固有番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする。また、請求項4に記載の発明にあっては、請求項2に記載の着信拒否方法では、前記発信者に固有の前記固有番号が前記記憶手段に記憶されている場合に、前記記憶手段に記憶されている当該固有番号に着信拒否情報を付加することを特徴とする。また、請求項5に記載の発明にあっては、請求項3または請求項4の何れかに記載の着信拒否方法では、前記発信者に固有の前記固有番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、第2の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、第3の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている前記固有番号に対して前記着信拒否情報を付加することを特徴とする。また、請求項6に記載の発明にあっては、請求項3または請求項4の何れかに記載の着信拒否方法では、前記発信者に固有の前記固有番号が付された呼び出しの履歴を前記記憶手段に記憶し、第2の操作手段を操作することにより前記履歴を前記表示手段に順次表示し、第4の操作手段を操作することにより前記表示手段に表示されている前記固有番号に付されている前記着信拒否情報を消去することを特徴とする。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正内容】

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば記憶手段に複数の固有番号と当該固有番号に対する着信拒否情報とを記憶し、発信者からの呼び出しに対して当該発信者に固有の固有番号が記憶手段に記憶され且つ当該固有番号に着信拒否情報が付されている場合に、着信側は着信拒否にかかる切断信号を電話回線網に送信し、当該電話回線網は発信者に対して話中を表示させる旨の信号を送信する。また、発信者からの呼び出しに対して、発信者に固有の固有番号を表示手段に表示し、第1の操作手段を操作することにより着信拒否にかかる切断信号を電話回線網に送信し、当該電話回線網は発信者に対して話中を表示させる旨の信号を送信する。また、発信者に固有の番号が記憶手段に記憶されていない場合

に、固有の番号を記憶手段に記憶するとともに当該番号に着信拒否情報を付加する。また、発信者に固有の番号が記憶手段に記憶されている場合に、記憶手段に記憶されている当該番号に着信拒否情報を付加する。また、発信者に固有の番号が付された呼び出しの履歴を記憶手段に記憶し、第2の操作手段を操作することにより履歴を表示手段に順次表示し、第3の操作手段を操作することにより表示手段に表示されている固有の番号に対して着信拒否情報を付加する。また、発信者に固有の番号が付された呼び出しの履歴を記憶手段に記憶し、第2の操作手段を操作することにより履歴を表示手段に順次表示し、第4の操作手段を操作することにより表示手段に表示されている固有の番号に付されている着信拒否情報を消去するので、簡単な操作あるいは自動で特定の発信者からの着信を拒否し、さらに着信を拒否された発信者に不自然さを感じさせない移動電話が実現可能であるという効果が得られる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の着信拒否方法が適用される移動電話の構成と動作を説明するための説明図である。

【図2】 本発明の着信拒否方法が適用される電話回線網と移動電話との状態の流れを示す図である。

【図3】 本実施の形態の表示部2における表示例を示す図である。

【符号の説明】

1-1、1-2 移動電話器

2 表示部（表示手段）

3、3.. 操作キー

3a 通話キー

4 記憶部（記憶手段）